

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：32504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02081

研究課題名(和文)「ブライダルツーリズム」の開発と展開可能性

研究課題名(英文) Possibility of developing and deploying "Bridal Tourism"

研究代表者

今井 重男 (IMAI, Shigeo)

千葉商科大学・サービス創造学部・教授

研究者番号：40596657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ブライダル市場の顧客の多様化が進み、新たなサービス管理や開発が求められるなか、「リゾートウエディング」「旅婚」など、「楽しみのための旅」を伴う新たなブライダルビジネスが登場し始めた。本研究ではリゾート地・観光地における挙式とそれに伴う旅を「ブライダルツーリズム」と仮定・定義付けし、商品化の可能性、特に本研究に関わる産業(特に地域振興等)に対する提案を試みた。ブライダルツーリズムの定義確立と一側面からの結論は得られたものの、それをもって産業へ提案するまでは行きつかなかった。引き続き研究を継続し、提案を実現させたいと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

リゾートウエディングの場合、挙式の場所＝旅行地はリゾート地と呼ぶに相応しい地域に限定されやすいのに対して、ブライダルツーリズムは、リゾート地のイメージの無い地域も候補地となる。また、前者は挙式のために旅行するのであって主：従が挙式：旅行となるが、後者は地域に潜む多様な魅力に触れ、その地ならではの歴史や文化を体感する中で挙式もするという「旅行が主」「挙式が従」の旅の企画となる。しかもブライダル産業は裾野が広い上、ブライダルツーリズムであれば、宿泊産業、旅行業、地場産業も含めた土産物産業も関係する。さらに近年訪日外国人が増加するなか、新たなインバウンド向けの魅力になることも期待できる。

研究成果の概要(英文)：Customers in the bridal market are diversifying. On the other hand, new service management and development are required. Recently in Japan, new bridal businesses such as "resort weddings" and "travel marriages" have started to appear, accompanied by "trips for fun." In this study, we defined weddings at resorts and tourist spots and the accompanying travels as "bridal tourism", and considered the possibility of commercialization. As a result, the definition of bridal tourism was established and some conclusions were obtained, but it was not possible to propose it to industry. We would like to continue research and realize the proposal.

研究分野：経営学

キーワード：ブライダルツーリズム ブライダルサービス ブライダル産業

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

日本におけるブライダル研究は、儀礼としての挙式に関する研究のほかは、ブライダルビジネスの歴史の変遷(今井,2014a)、ブライダル・ビジネスにおける関係性マネジメント(徳江,2012)など、ブライダルの発展や既存のブライダル関連施設・企業を対象としたマーケットに関する研究がみられるが、旅という視点での研究は新婚旅行(山本,2011)、リゾートウェディング(増田,2011)(石井,2015)(今井,2014b)に限定される現状がある。

しかし、ブライダル市場を取り巻く環境は、生涯未婚率の増加、初婚年齢の上昇、挙式や披露宴をしない“なし婚”の急増や簡素が進むなど、顧客の多様化が進み、新たなサービスの管理や開発が求められている。ブライダルビジネスは社会的変化に対応した企業が成長してきたといえる(徳江,2012)、一方で「なし婚」の増加、「旅婚」の登場など、従来型の結婚式に否定的な風潮もある。今後は「式場」だけではなく、新たなブライダルビジネス構築に向けて、議論を深める必要があると考えた。

### 【参考文献】

- 石井裕明(2015)「沖縄リゾートウェディングの成長要因」『国府台経済研究』25-2、55-72 .
- 今井重男(2014a)「近代婚礼創作とブライダル・ビジネスの源流」『千葉商大論叢』52- 1、341-354.
- 今井重男(2014b)「リゾートウェディングの地としての軽井沢の軌跡」『千葉商大論叢』51- 2、275-289.
- 徳江順一郎(2012)「ブライダル・ビジネスにおける関係性マネジメント」『観光学研究』11、37-50.
- 増田榮美(2011)「リゾートウェディングを志向する消費者傾向の分析」『上田女子短期大学紀要』34、143-160.
- 山本志乃(2011)「新婚旅行とアンノン族--戦後における若い女性の旅をめくって」『旅の文化研究所研究報告』20、61-73

## 2. 研究の目的

ブライダル市場の顧客の多様化が進み、新たなサービス管理や開発が求められるなか、「リゾートウェディング」「旅婚」など、「楽しみのための旅」を伴う新たなブライダルビジネスが登場し始めた。しかし、観光研究におけるブライダル研究は日常生活圏の「挙式」、非日常圏での「新婚旅行」を中心に研究が進められており、「挙式」「観光」を融合させた研究は進められていない。

本研究ではリゾート地・観光地における挙式とそれに伴う旅を「ブライダルツーリズム」と仮定し、「ブライダルツーリズム」の定義の確立したうえで、各種統計・企業調査・インタビュー調査から現状と課題を考察し、「ブライダルツーリズム」の可能性、特に本研究に関わる産業(特に地域振興等)に対する知見還元を目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は日本におけるブライダルビジネスの変遷と特徴を理解し、「ブライダルツーリズム」を新たなツーリズムとして定義した上で、「ブライダルツーリズム」の現状・課題を把握し、今後の展開と可能性について明らかにするものである。具体的には 先行研究・統計を収集・分析から日本におけるブライダルビジネスの変遷を整理することで歴史的・文化的背景を理解した上で、各種資料・企業調査から近年の顧客動向を把握し、「ブライダルツーリズム」を定義する、

旅先で挙式するカップルと列席者および現地の企業・行政調査などから「ブライダルツーリズム」の現状を分析し課題を抽出する、「ブライダルツーリズム」の可能性を学際的な視点から考察した上で、新たなブライダルビジネスモデルを構築する、である。

●28 年度実績

計 6 回の研究会、基本的な文献調査の渉獵と整理、リゾートウエディング新興エリアへのフィールドワークを通じ、当初の予想を超える知見の獲得があった。しかし、一方で、当初の計画にあった、ブライダル業界専門誌、ブライダル情報誌、ハネムーン担当者へのインタビューは実施に至らなかった。これらに代替する意味で文献調査を精力的に行い広範囲の情報収集を目指したが、“調査範囲”という面で少し物足りないものとなってしまった。

●29 年度実績

計 5 回の研究会、基本的な文献調査の渉獵と整理を続けると共に研究者の専門分野に応じた調査・研究を行い、ブライダルツーリズムの歴史的・文化的背景を明らかにするよう努めた。その結果、ブライダルツーリズムの基礎研究を深化させることと、研究進展内容を国内学会で報告したほか大学紀要に公表した。

新たな試みとして、ブライダルツーリズムの構造を明らかにすべく アンケート調査を行い、得た知見をブライダル産業の専門家育成プログラムにおいて講義した。以上のように当該年度はブライダルツーリズムの基礎研究、現状分析、研究成果の社会への還元を行うことができたが、予定されていた海外調査が現地との調整が整わず遂行することができなかった

●30 年度実績

本年度も文献調査の渉獵と整理を続けるとともにメンバーの専門分野に応じた広義のブライダルサービスの歴史的・文化的背景を明らかにし、ブライダルツーリズムの基礎研究を深化させた。しかし、研究代表者の所属大学の学部長着任に伴う校務繁多により、予定されていた研究会実施、海外調査など一部研究が停滞した。当初の研究計画を貫徹すべく研究期間延長を申し出たて、研究体制を再構築し遂行することとした。

●31 年度実績

計 4 回の研究会とこれまでに得られた知見のまとめ作業として、学会発表と論文公表を精力的に行った。具体的には 3 回の学会報告（国内×2、海外×1）、論文発表 4 本であり、これらはいずれも研究者の専門分野をメインにしながら、共同研究者の専門も織り込んだ内容となっている。こうした研究業績は、1 冊の報告書として製本した。

#### 4 . 研究成果

本研究ではリゾート地・観光地における挙式とそれに伴う旅を「ブライダルツーリズム」と仮定・定義付けし、商品化の可能性、特に本研究に関わる産業(特に地域振興等)に対する提案を試みた。ブライダルツーリズムの定義確立と一側面からの結論は得られたものの、それをもって産業へ提案するまでは行きつかなかった。引き続き研究を継続し、提案を実現させたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 今井重男	4. 巻 第57巻3号
2. 論文標題 近現代日本のブライダル報道 大正・昭和中期の記事涉獵とヴェーバーの「資本主義の『精神』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉商大論叢	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石井裕明・外川拓・朴宰佑・松本大吾	4. 巻 第34回全国大会学術論文集
2. 論文標題 観光地や宿泊施設の広告レイアウトと消費者の心理的距離	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第34回日本観光研究学会 全国大会 学術論文集	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 内田彩・今井重男・ケヴィン,ミラー	4. 巻 27号
2. 論文標題 新婚旅行の歴史の変遷に関する研究 - 1950年代～70年代を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本国際観光学会論文集	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今井重男	4. 巻 第29巻第1号
2. 論文標題 未婚者が結婚式・披露宴を「行いたい」と考える意識について ～多くの未婚者が「行いたくない」と否定する時代にあって～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国府台経済研究	6. 最初と最後の頁 32-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今井重男	4. 巻 第55巻1号
2. 論文標題 近代日本の新婚旅行 その解明の基礎研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉商大論叢	6. 最初と最後の頁 165 - 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 今井重男
2. 発表標題 若年未婚者の婚姻儀礼意識調査分析
3. 学会等名 経営行動研究学会 第 110 回研究部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田彩・今井重男
2. 発表標題 新婚旅行における「温泉地」 1950～60年代を中心にー
3. 学会等名 日本温泉地域学会第30回研究発表大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井裕明・外川拓・朴宰佑・松本大吾
2. 発表標題 観光地や宿泊施設の広告レイアウトと消費者の心理的距離
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroaki Ishii・Taku Togawa・Jaewoo Park・Daigo Matsumoto
2. 発表標題 Conceptual Association of Vertical Layout in Advertisements and Psychological Distance
3. 学会等名 International Conference on Research in Advertising (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田彩・今井重男・ケヴィン,ミラー
2. 発表標題 新婚旅行の歴史の変遷に関する研究 - 1950年代～70年代を中心に -
3. 学会等名 国際観光学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内田 彩 (UCHIDA Aya) (60632750)	東洋大学・国際観光学部・講師  (32663)	
研究分担者	松本 大吾 (MATSUMOTO Daigo) (60434271)	千葉商科大学・サービス創造学部・准教授  (32504)	
研究分担者	石井 裕明 (ISHII Hiroaki) (50548716)	成蹊大学・経済学部・准教授  (32629)	

